

## 人と防災未来センター 平成 29 年度事業評価

\* 評価基準（4段階評価）

[	S : 大変評価できる	]
[	A : 評価できる	]
[	B : あまり評価できない	]
[	F : 評価できない	]

評価単位	評定	委員コメント
展示	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人と防災未来センターには毎年約50万人の来訪者がある。こうした事業は、不断の努力がなければ次第に衰微するのが常であり、今の状態が長年続いていることは大いに評価されるべきである。</li> <li>・ ここには、巡回展示、メモリアル展示なども寄与している。</li> <li>・ 国際対応に関して、観光客には事業の意義が認知されることはないであろう。ベトナムのように諸外国の行政機関との連携ができれば、海外にも人防の存在と活動の意義を広め、貢献できるのではないだろうか。</li> <li>・ 水災害に関しての考え方や扱いは今後整理すべき課題であろう。</li> </ul>
資料収集・保存	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 約 20 万点に達する関連資料を収集したことが評価される。多くの資料は経年変化を受けるから、順次アーカイブ化を図りつつあるが、センター自体が予期せざる災害を受け、資料が散逸したり、使用不能になる可能性もあることを考えると、各種資料のアーカイブ化をいっそう促進することが望まれる。</li> <li>・ 資料の収集にとどまらず、そこから新しく資料の利活用に関わる情報発信方の提示、なども行われており、こうした方向でのさらなる進展が期待される。</li> </ul>
実践的な防災研究と若手防災専門家の育成／災害対応の現地支援・現地調査	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ センターの発足時は、大学などと類似の研究が見られたが、次第に研究の対象が災害に関わる実践的なものへと変わり、現在では災害現場で実際に得られる資料を対象とする研究に移ってきている。</li> <li>・ 国公立大学に 4 名、コンサルタントに 1 名の専門家を輩出しており、センターに当初期待された目標を果たしており、高く評価できる。</li> <li>・ 組織としての評価と個人の研究評価の識別が明確でない面もある。</li> <li>・ 総務省との連携のもとでの災害総括マネジメントも首尾よく行われている。</li> </ul>
災害対策専門職員の育成	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本件は現在では人防の重要事業となっており、政府の一部での同様な事業活動の見本ともなっており、この事業の評価には多言を要しない。</li> <li>・ ただ、活動やその成果の細部について、事業評価委員会資料の表現への留意が望ましい。</li> </ul>
交流ネットワーク	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人と防災未来センターはセンター内に閉じこもることなく、外なる諸機関・機構とネットワークを張ることを通じて、広い分野での災害の防止と軽減に貢献できる潜在力を有している。</li> <li>・ この機能を踏まえてアジア防災センターをはじめとする多くの国際機関とのネットワークが構築されているが、これがさらに強化されることが望まれる。</li> </ul>